

はじめに

メタボリックシンドロームや生活習慣病の増加を受け、保健医療従事者の役割も大きく変貌してきています。

社会習慣の変化や、医療費の高騰などの諸問題を受け、薬物中心の医療偏重に対して反省がみられるようになりました。すなわち、生活習慣病などに対しては、動脈硬化が基になって心筋梗塞や脳梗塞などといった重症の病気になる前に、食生活や運動習慣を見直し、事前に予防することの重要性が強調されるようになってきました。こうした背景を受け、健診・保健指導の効果が大きな期待が寄せられるようになったわけです。すなわち、国民が健康的な生活を送る上でもっとも重要でかつ基本的な食生活に対して適切なアドバイスを行い、指導・教育を行うことが管理栄養士をはじめとする保健医療従事者に求められています。

このようなニーズに十分に対応していくには、生活習慣病はもちろんのこと、肝臓病、腎臓病、貧血などを始め、食事療法が重要な役割をもつ疾患などにおいて、病気そのものに関する知識、とりわけ病態生理を理解しておくことが重要になります。NSTをはじめとするチーム医療にたずさわる関係者にはもちろん、さらには介護現場のスタッフにおいても、患者や利用者の身体状況の維持・改善のために必要な知識を得るのにお役に立てることと思います。

本書では、臨床症状や疾患がどのような病態生理で発生しているのか、またそれを解き明かすのに有用な検査値の読み方などを解説することにしました。とくに理解を助けるのに役立つよう、図や表を多く取り入れるようにしました。

是非本書を十分にご活用いただき、各疾患の病態生理を中心とした特徴を理解いただいた上で保健指導や栄養指導、食事療法に当たっていただきたいと思っております。日頃の業務でご多忙を極める保健医療従事者の方々にとっても、業務の合間に読みやすいように工夫してあります。また、これらの職種を目

指して勉学に励む学生諸君にとっても、きっと役立つものと信じております。皆さんのご努力によって国民の生活習慣が大きく改善され、もって国民の健康が増進され、疾病の予防・改善が行われることを切望しています。

本書の刊行にあたっては第一出版編集部の甚大なるご協力をいただきました。ここに深謝します。

2008年初夏

著者 識す